

生・性・SAY

令和2年7月 保健室



～保護者のみなさまにお読みいただきたい養護教諭からのメッセージです～

「生・性・SAY」は…性は生きることそのもの。性について語りましょう～がコンセプト。嶺南地区の高校の養護教諭が、年2回「生と性」関するテーマを決め、保護者のみなさまにお届けします。今月号のテーマは「性の多様性」です。この資料を通して、お子様と話すきっかけができればと考えています。

性的指向と性自認 「LGBT」という言葉が知られるようになりましたが「性同一性障害」を含むトランスジェンダー（T）と同性愛者や両性愛者（LGB）を混同している人は少なくありません。

身体の性

性器、性腺、染色体などの身体的特徴で分けられる性のことです。

心の性（性自認）

自分自身はどんな性だと思うか、ということ。

男性だと思う人、女性だと思う人、中性だと思う人、性別は決めたくないという人、など、様々です。

「心の性」と言われることもあります。多くの人は「身体の性」と「心の性」が一致していますが、「身体の性」と「心の性」が一致せず、自身の身体に違和感を持つ人たちもいます。



Transgender トランスジェンダー

「身体の性」は男性でも「心の性」は女性というように、「身体の性」と「心の性」が一致しないため「身体の性」に違和感を持つ人。「心の性」にそって生きたいと望む人も多く見られます。



好きになる性（性的指向）

好きになるかならないか、なるとしたらどんな性の人を好きになるか、ということ。

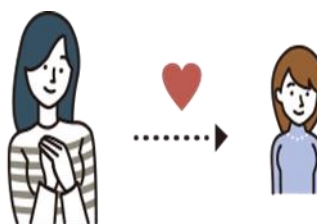
異性を好きになる人、同性を好きになる人、どちらの性も好きになる人、性別で好きになる人を決めたくないという人、特定の誰かを好きにならないという人、など、様々です。

これは自分の意志で選び取るというより、多くの場合思春期の頃に「気付く」ものです。



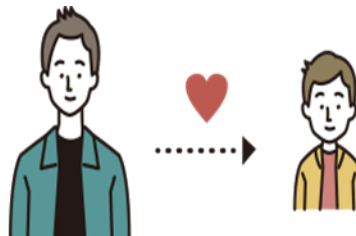
Lesbian レズビアン

女性の同性愛者
(心の性が女性で恋愛対象も女性)



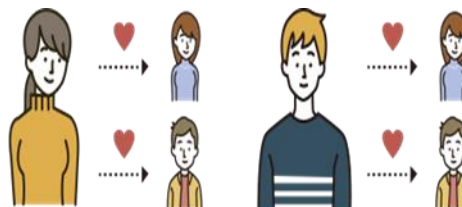
Gay ゲイ

男性の同性愛者
(心の性が男性で恋愛対象も男性)



Bisexual バイセクシャル

両性愛者
(恋愛対象が女性にも男性にも向いている)



LGBTとは、Lesbian（レズビアン、女性同性愛者）、Gay（ゲイ、男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシュアル、両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー、性別越境者）の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の総称のひとつです。

電通ダイバーシティ・ラボの2015年の調べ（全国69,989名にスクリーニング調査を実施）では、日本におけるLGBTの割合が人口の7.6%存在すると言われています。さらに…

セクシュアリティはLGBTとそれ以外の人で分かれているのではなく、グラデーションになっています。

♥LGBTだけではなくくれない個々人のセクシュアリティ ～ 以下のように、多様な人々がいます。

X ジェンダー 「心の性」が男性、女性のどちらかに規定できない／しない人々のこと。

A セクシュアル（無性愛者） 「好きになる性」をもたない人々のこと。

ノンセクシュアル（非性愛者） 恋愛感情を持ってても性的欲求を抱かない人々のこと。

パンセクシュアル 「好きになる性」が性別にとらわれない人々のこと。

トランスヴェスタイト／クロスドレッサー 異性の服装を好んで着る人々のこと。

身体の性について

インターセックス（性分化疾患） 身体の性の発達が先天的に非定型的である状態で、その大多数は男性・女性で、セクシュアル・マイノリティではありません。ですがもちろん、性分化疾患・インターセックスの状態を持つ人の中にも、セクシュアル・マイノリティの人がいます

Coming out

15,064人のうち、職場や学校でカミングアウトしている当事者は27.6%

〈LGBT当事者の意識調査（2016年7月15日～10月31日実施）〉より

LGBT当事者の中には、性的指向や性自認をカミングアウトすることによって、「自分を偽ることなく生きたい」と思っている人が数多くいます。しかし、「カミングアウトをすると、これまでの人間関係が崩壊してしまうのではないだろうか」、「友人や職場の同僚から否定的な反応が帰ってくるのではないだろうか」と悩んで、カミングアウトできない人たちがいます。親にさえ、打ち明けられない人もいます。中高生の時期に「気付く」ことの多い自分のセクシュアリティ。まず「親はどう思うだろう」と戸惑うのではないのでしょうか？当事者の家族や学校の教員・友人など周囲の人々ができる準備と支援があります。

第1ステップ

多様な性について知る

専門家／当事者から話を聞く、研修会を開催するなど、性的指向・性自認に関する知識を持つ機会を設ける。

第2ステップ

習慣・常識を変える

身の回りの習慣や常識となっている考え方を今一度点検し、性的指向・性自認に関する差別やハラスメントにつながるものはないか、見直しが必要なものはないか、考えてみる。

第3ステップ

理解者を増やす

組織内に、性的指向・性自認に関する知識を持つ理解者を増やす。理解者に対して「理解者、支援者」であることを目に見える形で行動することによって、当事者たちの応援の姿勢やメッセージにつながることを知らせる。家族、学校、職場の中で、当事者が、「自分の居場所がある」と実感できる機会を増やしていくことがとても大切です。たとえ一人でも、きちんと気持ちを受け止めてくれる人、安心感を与えてくれる人がいれば、前向きな気持ちが生まれるものです。

★性は多様です。そして、個人の尊厳にかかわる大切な問題です。今一度考えてみませんか？★

（引用）・少年写真新聞社「高校保健ニュース」2019年7月8日号

・LGBTについて考えよう（法務省）<http://www.moj.go.jp/JINKEN/LGBT/index.html>

・LGBTとは 東京レインボープライド <https://tokyorainbowpride.com/lgbt/>

・日高庸晴 宝塚大学看護学部教授 「LGBT当事者の意識調査 ーいじめ・職場環境問題ー」